



物づくりのヒントは自然界に、

必要な知識・技術は実践から身につける

株式会社ストーンワークス
代表取締役 上 中 誠

鹿児島市内を走る路面電車の軌道敷に張られた緑鮮やかな芝生は、景観の美しさと潤いを感じさせてくれます。かつては厄介ものとして疎まれていた火山噴出物のシラスを主原料として製品化されたシラス緑化基盤が、施工されています。

最近よく、「どうしてシラスを製品化しようと思ったのですか」と聞かれます。私自身、1968年中学校卒業と同時に神奈川県の大手工務店へ左官見習いとして職に就きました。10年後帰省して'77年上中工務店を設立し独立を果たしました。しかし、'85年頃から在来工法木造住宅全盛の時代から既成パーツを基本とする新工法新材時代へ移行するなか、左官業への限界を感じ独学で人造大理石の製法を3年間研究し、'90年有限会社ストーンワークスを設立。公共事業建設ラッシュの時代、人造大理石の受注は九州一円にまで拡大し、順調に思えた市場もバブル崩壊と共に公共工事の減少と安価な輸入石材の増加で売上は、5年目あたりをピークに徐々に降下に転じました。大手も撤退・廃業を始め、この市場に見切りをつけたことから、もの作り企業として生き残りを賭けた商品開発を余儀なくされました。そこで、新たに取り組み始めたのが、環境対策として注目されていたエコ商品でした。

これまで培った左官業セメント系人造大理石の技術を活かし、加圧製法での陶器瓦・廃ガラスの製品化に活路を見いだそうとし、1年余り試作を繰り返しました。完成度の高いものを実用化する

ためには、強度などデータ分析依頼が必要と工業技術センターへ出向き、そこで最初に熱心に対応して下さったのがシラス研究者の袖山研一主任研究員でした。同氏との運命的な出会いがなかったら、私自身シラス製品に携わることは無かったと思っています。後戻りできない状況のなか、2,3ヶ月後にはエコ商品はどこへやら。来る日も来る日もシラス製品を試作し、それを工業技術センターへ持参しました。共同研究体制のもと、センターへ頻繁に行き来して、FAXで試験結果が深夜に届くこともしばしばでした。'02年9月共同出願し、'06年9月に念願の特許が登録されました。

知的財産とはまったく無縁だった私も特許、商標を含め5件出願しております。シラス緑化基盤は、販売開始から5年後ようやく全国展開を視野に入れるまでになってきました。また、全国地場産業優秀製品表彰大賞（中小企業庁長官賞）をはじめ多くの賞も受賞し、今年6月には全国発明表彰の「発明賞」もお陰様で受賞できました。

工業技術センターは、私どものような中小企業にとって製品開発や製造で困った時の「頼りになるセンター」です。現在も製品の品質管理に関する評価などをお願いしています。これまで工業技術センターから受けた数多くの支援に感謝するとともに、今後とも、地域の地域資源を活かした、社会の役に立つ製品を鹿児島から全国へ発信し、普及拡大できるよう努めて参りますので、よろしくお願いたします。



シラス緑化基盤による軌道敷緑化



シラス緑化基盤による屋上緑化
(国土交通省 鹿児島県国道事務所)

